

# TGR TEAM ZENT CERUMO

## 2021 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJIMAKI GROUP SUZUKA GT 300km RACE

第3戦 鈴鹿サーキット

## ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆8月22日（日） RACE

決勝結果 8位

ZENT CERUMO GR Supra に好フィーリングは感じていながらも、季節はずれの低い路気温のなかで行われた公式予選では、思わぬ伸び悩みで10番手というグリッドからレースを戦うことになったTGR TEAM ZENT CERUMO。8月22日（日）の決勝日は、好感触を結果に繋げるべく、どんな天候になってもしっかりと対応できるよう、準備を整え午後1時10分からのウォームアップに臨んだ。



立川祐路がステアリングを握った ZENT CERUMO GR Supra は、ウォームアップで7周をこなし改めて感触を確認。石浦宏明も1周だけ乗り込み、後半ステントに備えることになった。このウォームアップの終了間際に起きたクラッシュにより、決勝レースは10分間ディレイされ、午後2時48分に決勝レースの火ぶたが切られた。



スターティンググリッドでは夏の日射しが戻っており、急速に路気温が上がった決勝レース。ZENT CERUMO GR Supra を駆る立川は、まずはオープニングラップでひとつポジションを上げると、2周目には#17 NSX-GT をオーバーテイク。好フィーリングの ZENT CERUMO GR

ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEI

asics

Jms

トヨタ東自大

BBS

SHOWA  
BRAKE FLUID

YAMAHA

# TGR TEAM ZENT CERUMO

Supra を駆り、ひさびさに立川らしいアグレッシブなレースを展開していった。

しかし5周目、上位陣の混戦が落ち着き始めたころ、トップを走っていた#64 NSX-GT が日立 Astemo シケインでクラッシュしてしまう。衝撃自体は大きなものではなかったにしろ、スポンジバリアに車両の熱が引火。もうもうと煙が立ちこめてしまった。そのため、すぐさまレースコントロールはフルコースイエロー（FCY）を導入。直後にセーフティカーに切り替えられた。

消火、さらにスポンジバリアの交換もあり、セーフティカーランは11周まで続くことになる。しかし12周目にリスタートを迎えると、ふたたび立川のドライビングが冴え渡った。15周目、立川はまず日立 Astemo シケインで#12 GT-R をかわし6番手に浮上。さらに18周目、#8 NSX-GT をオーバーテイク。いよいよ5番手まで浮上した。素晴らしいペースでバトルをしかける ZENT CERUMO GR Supra は、コース上でも最も目立つ存在となっていた。



19周目、GT500 クラスの上位陣がGT300 クラスの集団に追いつき始めると、少しずつGT500 のライバルたちもピットインし始めた。好調な走りをみせていた立川をピットにいつ戻すか、TGR TEAM ZENT CERUMO にとっても悩ましいタイミングだ。立川はGT300 をうまく使いながら首位争いに近づき、ライバルたちのピットインにともない3番手まで浮上する。

最終的に、チームは21周を終えたところで立川をピットに呼び戻し、石浦宏明に ZENT CERUMO GR Supra のステアリングを委ねた。ピット作業はパーフェクトで、石浦は ZENT CERUMO GR Supra をコースに戻していく。ただ、必死にタイヤをウォームアップさせていた石浦の横を、GT500 のライバルたちが通過していった。

ライバルたちは、GT300 の集団がコース上に現れる前にピットインを行い、ロスタイムを削るアンダーカットを行っていた。そのため、わずかなタイムの

ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

トヨタ東自大

BBS

SHOWA  
BRAKE FLUID

MOTUL

# TGR TEAM ZENT CERUMO

差で ZENT CERUMO GR Supra を先行していたのだ。全車がピット作業を終えると、石浦の順位は 8 番手。またバトルを勝ち抜かなければならなくなった。とはいえ、フィーリングは悪くない。石浦は上位進出を目指し、ZENT CERUMO GR Supra のアクセルを踏んだ。



ただ石浦は、#16 NSX-GT を先頭とした 4 番手争いに巻き込まれていく。ZENT CERUMO GR Supra を含め 7 台ほどがパックとなった集団で、トップドライバーたちはサーキットを沸かせるバトルを展開していく。だんだんと集団の間隔が広がり始め、石浦は#17 NSX-GT、#36 GR Supra らとのバトルを繰り返す。見ごたえがあるものだったが、逆に言えば戦いのなかでなかなか自分のベストのペースで走ることができずにいた。

終盤、石浦のライバルは#17 NSX-GT、そしてひとつ順位を落としてきた#12 GT-R という顔ぶれになっていく。48 周目、日立 Astemo シケインで#17 NSX-GT が#12 GT-R に仕掛けたスキをつき、石浦は#17 NSX-GT をオーバーテイク。7 番手に順位を上げる。

石浦はさらに#12 GT-R を攻めるが、なかなか相手もスキをみせない。そんななか、50 周目の日立 Astemo シケインで鋭い加速をみせた石浦は、続く 1 コーナーで#12 GT-R のインへ。これが成功し、ついに 6 番手に浮上した。

ただその直後、オーバースピード気味に飛び込んだ ZENT CERUMO GR Supra は、2 コーナーでわずかにコースを外れてしまった。すぐにレコードラインに戻ることはできたものの、ふたたび 2 台が先行。最後までバトルは続いたが、ZENT CERUMO GR Supra は 8 位でフィニッシュすることになった。



ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEI

asics

JMS

トヨタ東自大

BBS

SHOWA  
BRAKE FLUID

YAMAHA

# TGR TEAM ZENT CERUMO

TGR TEAM ZENT CERUMO が望んだ結果とは言いがたいが、とはいえチームメンバーの表情は前向きだった。ライバルと戦い、勝ち抜く糸口が見えたからだ。この気運を今度こそ結果に繋げたい。TGR TEAM ZENT CERUMO は第5戦スポーツランド SUGO での活躍を誓い、鈴鹿サーキットを後にした。

## ドライバー／立川祐路

「クルマの状態は前日同様良かったです。予選では周囲の状況、条件もあり、GR Supra 勢が前にいけない状態になってしまいましたが、決勝では違った展開になり、クルマもタイヤのフィーリングも良く、今年初めてレースで戦える印象がありました。昨日語ったように『攻めのレースをしよう』ととにかく前に出るつもりで走りましたし、それができる手ごたえもありました。結果的にはピットのタイミングや集団に埋もれてしまったりと、思っていたほどのリザルトにはなりませんでした。悔しい気持ちはありますが、次に繋がるレースになったと思います。次戦のスポーツランド SUGO できっちりトップ争いができるようにしていきたいと思います」



## ドライバー／石浦宏明

「レース序盤、立川選手が頑張ってくれて順位を上げてくれましたが、ピットイン前にトラフィックに引っかかっていると無線が入り、チームもピットインを判断したものの、それでロスがあり、自分がコースインするときにはライバルが次々に先行するような状況でした。自分としてもバトルのなかでなかなか抜け出せなかったのは反省点で、うまく展開を作れませんでした。悪循環になってしまいましたね。最後は2台のライバルとの争いで一度は抜きながらも、オーバースピード気味でわずかにコースアウトし、順位を落としてしまったので、そこは反省点です。トライした結果なのですが、順位に繋がれなかった悔しさが残っています。チームとしても自分としても反省するところがあるので、次戦にしっかりと活かしていきたいと思います」



ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

トヨタ東自大

BBS

SHOWA  
BRAKE FLUID

MOTUL

# TGR TEAM ZENT CERUMO

## 村田淳一監督

「もてぎ以降、TCDさんの協力もあり、やってきたセットアップの見直しが功を奏し、ドライバーが納得いくセットアップに仕上げられたと思います。レース序盤を見ても分かる通り、立川選手らしいレースを展開してくれたと思います。ただ戦略ミスというか、ピットのタイミングがうまくいかず、アンダーカットしたライバルに先行されるかたちになってしまいました。ピット作業自体はうまくいき、メカニックには感謝もしていますが、戦略面は課題ですね。石浦選手は最終的に順位を落としてしまいましたが、ペースは良かったのに塞がれるレースになってしまいました。せっかく良いレースをしても戦略がやはり改善点だと思います。次戦までにしっかりと解決し、スポーツランド SUGOで優勝できるよう、引き続き取り組んでいきたいと思います」



ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS

HEISEI

asics

Jms

トヨタ東自大

BBS

SHOWA  
BRAKE FLUID

Motul

# TGR TEAM ZENT CERUMO

## 決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	23	MOTUL AUTECH GT-R	52	1'50.807
2	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	52	1'50.485
3	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	52	1'50.830
4	1	STANLEY NSX-GT	52	1'52.007
5	36	au TOM'S GR Supra	52	1'51.871
6	12	CALSONIC IMPUL GT-R	52	1'51.137
7	17	Astemo NSX-GT	52	1'51.343
<b>8</b>	<b>38</b>	<b>ZENT CERUMO GR Supra</b>	<b>52</b>	<b>1'51.041</b>
9	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	52	1'50.204
10	37	KeePer TOM'S GR Supra	52	1'51.642
11	8	ARTA NSX-GT	52	1'51.466
12	14	ENEOS X PRIME GR Supra	52	1'51.799
13	19	WedsSport ADVAN GR Supra	52	1'51.891
14	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	52	1'51.503
	64	Modulo NSX-GT	4	1'49.082

ZENT

GR TOYOTA  
GAZOO  
Racing

BRIDGESTONE

PMU  
RACING PADS

ADVICS



asics



トヨタ東自大

BBS

SHOWA  
BRAKE FLUID

